

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	江東園つばき保育園
施設所在地	江戸川区春江町 2-5-15
事業所名	社会福祉法人 江東園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

六感(視・聴・触・味・嗅覚+情感)

<テーマの設定理由>

六感を交えながら、テーマに沿った園児の発見を見ていくため。
保育目標「夢のある子・感性の豊かな子」に向けて子どもを育てるため。

2. 活動スケジュール

令和7年8月1日～令和8年3月31日まで

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

8/18(月)

準備物…タライ、水遊び用マット、水、氷

環境 …水遊びの際に実施

8/21(木)

準備物…バケツ・塩・砂糖・水

環境…水遊びの際に実施

9/12(金)

準備物…ペットボトル、アルコール消毒

環境 …8月に園児が飛行機雲を見て「あれなに？」と興味を示していた為、
主活動として実施

11/19(水)

準備物…タライ、水、葉っぱ(散歩時に拾ったもの)

環境 …散歩時に緑道の流れる水の上に葉っぱが落ちて、流れていく様子を感じ深く
見ていた為、帰園して実施。

12/8(金)	準備物…透明のケース、水、高齢者・障がい者利用者から借りた遊具（ボールや魚の置物等） 環境 …各利用者の部屋に行き、水に浮かびそうなものを借りる。
12/19(金)	準備物…透明な袋、花紙、セロハンテープ、丸シール、R-1 容器、糸、机 環境 …机の上に様々な素材を準備し、見立遊びをした。
1/29(木)	準備物…紙皿、丸シール、セロハンテープ 環境 …好きな色の丸シールを選択し、魚を製作した。
3/9(月)	準備物…魚の塗り絵、クレヨン、机、椅子 環境 …なるべく多くの種類の生き物が描かれた塗り絵を探した。導入として、魚の名前をクイズ形式で考えた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

日付	活動内容(文章と写真2枚以上)
8/18(月)	<p>水遊び時にタライを二つ用意する。一つは水を張ったタライ、もう一つは氷を入れたタライ。水の温度の違いを感じる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
8/21(木)	<p>水遊び時にバケツを準備する。①塩②砂糖の順番で、水に溶けるか溶けないか、色は何色になるのかの変化を見る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

<p>9/12(金)</p>	<p>①柔らかいペットボトルにアルコール消毒を5回程度プッシュする。 ②キャップを閉めてペットボトルをねじる。 ③勢いよく手を離すとペットボトル内の空気が冷えて雲が出来る。 その後、屋上に行き実際に雲を観察する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>11/19(水)</p>	<p>拾ってきた葉っぱをタライに張った水に浮かばせる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>12/8(金)</p>	<p>デイサービスや障がい者の利用者・支援員から水に浮く物を借りて、水の張ったケースに浮かべる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>12/19(金)</p>	<p>様々な素材を使い保育士と共に海の生き物を作る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

1/29(木)	丸シールを自分で剥がし、紙皿に貼る。 	
3/9(月)	魚の塗り絵をする。 	

5. 振り返り

日付	活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり	振り返りによって得た先生の気づき
8/18(月)	氷が溶けていく様子を見て「なんで溶けるんだろう」「あったかいからじゃない?」と話す。保育者から「早くかき混ぜたら氷が溶けるかもしれないね」と話し、勢いよくかき混ぜる。	溶ける仕組みに気付いた為、お湯があっても良かったと思った。溶ける時間を計測しても実験の様になると思った。
8/21(木)	塩・砂糖が溶けていく様子を見て「(塩) 透明になった」「(砂糖) 白に濁っている」「なめてみたい」「(塩・砂糖) 入れるの多くして」と話す。保育士から「水に溶けるね。もっと塩や砂糖を入れたら溶けないかな、それとも水をたくさん入れたらもっと溶けるな」と話し、水や塩・砂糖を多くバケツに入れる。	溶けることや色が違うことに気付くことができた。塩・砂糖だけでなく、他の粉を使うとどのような変化があるかを実施してもよいと思った。

9/12(金)	導入で園児の前で雲を作ると「え、なんで！」等の興味を示していた。実際に園児がやってみると「すごーい！」等の歓声をあげていた。屋上で雲を見た際に灰色よりだった雲を見て「白くないね。」と保育士に伝えていた。	ペットボトルを数回ねじると雲が発生しなくなった。複数個用意しておく必要がある。又、次回の実施の際は色を付けて行くと可視化しやすいと感じた。
11/19(水)	緑道で流れる水に葉っぱが落ちた様子を再現する。「葉っぱは浮かんでるね。何か他の物は浮かぶかな？」と聞くと「どんぐりとかりんごとか石がいんじゃない？」と園児から声が聞かれる。	最初は園児の発見だったが、新しい展開を生むために保育士からヒントをばらまくのも一つの手段だと感じた。そこから一緒に考えできたらいいと思った。
12/8(金)	水に浮かぶものは何かをデイサービスや障がい者の利用者・支援員に聞き、借りた。借りた物の中でも魚の置物を気に入り「水族館みたい」と話す。家庭でも「魚浮かんだよ」と話す声が聞かれたとの事。	“水族館”というワードが出た為、水から魚にシフトチェンジして次回、海の生き物作成を行う。子どもの声を拾い実行していく。
12/19(金)	前回の水に浮かべた魚を見た様子から「水族館作りたい」という声が聞かれた為、素材を使い海の生き物を製作した。「たこ作る」「サメがいいな～」という声から保育士とともに作った。	素材に触る事が中心となってしまう、保育士の目的とはずれてしまった。年齢発達を考え、ある程度準備された中から製作していく。又、園児の出来上がった満足感・達成感に繋げていく。
1/29(木)	以前に続き「水族館を作りたい」と園児から声があった為、魚を製作した。導入の際、魚の型に切った紙皿を見せると「魚だ！やった！」「早く作りたい！」と製作に対する意欲を高めていた。	発達を考慮すると難易度を少し上げても良かったと感じた。又、今回は魚だけであったが『たこ』等の様々な海の生き物を用意し、選択出来る様にしても良かったと感じた。
3/9(月)	魚のイラスト（塗り絵）を見せると「早くやりたい！」「これはチンアナゴ！」と海の生き物の名前を楽しく答えていた。	前回から少し間が空いていた為、まずは海の生き物の種類をなるべく多く準備した。好きな海の生き物の種類が個々にあった為、今後は映像や画像で本物を見せたいと考えている。